

研究に関するお知らせ (第1版)

<研究の名称>

当院で分娩管理した不妊治療後妊娠の周産期予後に関する検討

2019年1月31日

成田赤十字病院産婦人科では以下にご説明する研究を行うことを計画しています。ご自身の情報データのご使用を拒否される場合には、研究不参加とさせていただきますので、下記のお問い合わせ窓口にお申し出ください。お申し出になられても、みなさまが不利益を被ることはございませんのでご安心ください。研究対象者が未成年者の場合は、保護者などの代諾者からの不参加のお申し出にも対応させていただきます。

■研究の概要

<研究の目的と意義>

晩婚化が進む現在、不妊治療の件数は年々増加しており、産婦人科学会によると、2016年には、日本の全出生のうち5.5%が生殖補助医療技術(IVFやICSIなどの体外受精)後妊娠によるものでした。不妊治療による妊娠では、母児の周産期合併症が増加するとする報告と、有意差のないとする報告があり、結論が出ていません。不妊治療と周産期合併症の関連を調べることで、今後さらに増加していくと予想される不妊治療を受けて妊娠された方達への治療が、より質の高いものにできるかもしれません。

<研究の方法>

当院で2015年1月から2018年12月に出産した患者様のカルテから、下記の臨床情報を抽出し、統計学的解析を行います。個人情報には削除し匿名化し、個人情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。以下のような情報を収集します。

不妊治療の種別、年齢、在胎週数、経産歴、BMI、喫煙歴、婚姻状況、未受診妊婦、高血圧合併の有無、糖尿病合併の有無、胎児数、分娩様式、妊娠糖尿病の有無、妊娠高血圧症候群の有無、胎盤位置異常の有無、胎児発育不全の有無、出血量、常位胎盤早期剥離の有無、児出生体重、Apgarスコア、臍帯動脈pH、NICU入院の有無、子宮内胎児死亡、児奇形の有無

研究結果は学会などで発表させて頂くことがございますが、個人が特定されない形で行いますのでご安心ください。

■研究の対象となる方

2015年1月1日～2018年12月31日に当院で出産された方。

■情報の保護

研究データは、パスワード等で制御されたコンピュータに保存し、特定の関係者以外がアクセスできない状態で統計処理を行います。調査結果は個人を特定できない形で関連の学会および論文にて発表する予定です。

■お問い合わせ窓口

成田赤十字病院

研究代表者 第二産婦人科部長 杉田 達哉

電話：0476-22-2311 Fax：0476-22-6477